
菅原啓太物語

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

菅原啓太物語

【Nコード】

N4831V

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

まだ内容的に納得しとらんゆえ、書き足すかも。

雨が降り続ける。まるで空が失恋したようだ。誰に失恋したのかは
ようわからんが、そんな感じがする。

マイタケよしおは、とあるスナックバーの前でボツボツにされて
いた。よくある都会の光景だ。珍しくない。

ざあああああ。

空はそれを見て泣いてるのか、それとも不況の日本を憂いて泣いて
るのか。2010年、年間自殺者数は五万人らしい。

他人事ではない。

と作者は思う。作者はアルバイトなのだ。

そして、とある工場で作業をしている菅原啓太という青年もまたア
ルバイトであった。来る日も来る日も作業場で同じ作業を繰り返し
てる。

社員と違い、アルバイトは高度な教育を受けられない。ひたすら代
わり可能な単純作業。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・
インしました。従業員は至急避難してください」

うーうーうー。

爆発音。

菅原啓太は逃げ遅れて、作業場で即死してしまった。

ざあああああ。

雨は悲しんでるのか、単に鼻水を垂らして風邪気味なだけなのか。
駅前の地下通路で、大石ぶりおは、ギターを弾いていた。
ジョン・レノンの曲を弾いていた。

歌詞を載せたいが、著作権の都合より、載せられません。
載せるには、使用料を著作権保有者に支払わねばなりません。
ざあああああ。

雨は止まない。紀子は、傘を忘れたので、コンビニで安い傘を買っ

た。

紀子は、明日の会議のことが気になっていた。
スピーカーから放送が流れた。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました」
爆発音。

紀子はぶっ飛び、壁に頭を思い切り打ちつけ、即死してアスファルトに倒れた。

ざああああああああ。

紀子の死体の上をかたつむりが這う。

恐るべきは、マース・システム、と作者は思う。

まず、マース・システムの内容がよくわからない。

紀子の父親は、とある会社で部長をしていた。

雨はすでに止んでいた。

紀子の父、紀夫は、会社で残業をしていた。

自販機でコーヒーを買う。

「ふう。なかなか終わらないな」

スピーカーから放送が流れた。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・

インしました。至急、避難してください」

紀夫はあわてて、コーヒーをこぼした。

「な、なにい！」

紀夫は廊下を走った。

どおおおおおおおん。

紀夫は吹っ飛んだ。

窓をぶち割って、落下した。

ざああああああああ。

急に雨が降ってきた。

アスファルトに倒れる紀夫。

紀夫は雨を全身で浴びながら、薄れゆく意識の中、弟の紀太郎のこ

とを考えていた。

紀田紀太郎は海苔が好きだった。おにぎりの海苔も手巻き寿司の海苔も大好きだった。

そして、すぐに悪ノリする悪い癖があった。学生時代、自転車を四人乗りしたことがある。

小学生の頃、父、紀彦の書斎に忍び込み、書類を糊でべたべた壁に貼って怒られたこともある。

ざあああああ。

雨がそんなくだらな話よせと怒っている。雨はけっこうせつかちだ。

紀夫は完全に意識を失った。

紀夫の妻、紀香は、夫がなかなか帰ってこないので心配していた。残業だとは聞いていたが、もうすでに深夜の二時。いくら何でも遅い。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。至急、避難してください」

「ええっ。こんな時間に」

爆発音。

紀香は床に倒れた。

ざあああああ。

雨はずっとずっと降っている。止む気配がまるでない。一体何のもりで雨は降ってるのか。雨は一体何を考えてるのか。

銭湯りんご湯。

その休憩所で、勝山信二と清田信雄は会社の上司の悪口を言い合っていた。

だんだん興奮してきて、前のソファでタバコを吸っていたメタボリックな男性に「タバコを消せ！」と叫んでしまった。

二人は運が悪かった。そのメタボリックな男性は髪型が普通だった

のでわからなかったが相撲取りだった。
相撲取りがタバコを吸うなよ！

二人は相撲取りに首ねっこをつかまれ、外に連れ出された。おそろく、ボツコボコにされるであろう。

ざああああああ

雨は悲しく切なく降り続ける。

銭湯のアナウンス。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。お客様。至急避難ください」

うーうーー。

ががが。

ぎぎぎぎぎ。

脱衣場の方で爆発音が鳴り響いた。

市街のアパートに住んでいる西村辰夫。

辰夫はカップ坦々麺を食べながら、ラーメン屋の坦々麺を食べたいなあと思う。

辰夫は、アルバイトである。本当に低賃金と重労働に苦しんでいる。しかし、ニュースを観ながら、被災地に比べればましかなあと思う。被災地の農家は、原発事故から、風評被害で、すごい不安とストレスを抱えている。

「ずずず。いつアルバイトから脱出することができるのかな……」

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。至急、避難してください。至急、避難してください」

爆発音。

ざああああああああ

さて。

菅原啓太はどうなったのか。題名からして彼がこの物語の主人公の
はずである。しかし、彼は死んでしまった。

つまり、ここで、菅原啓太という同姓同名の人物が登場する。

彼は、正社員であった。とある会社で課長をしていた。

菅原啓太は、会社で残業をしていた。

ざあああああああ。

「雨止まないなあ。はあ。しみりしちゃうな」

菅原啓太はパソコンとにらめっこしてる。

「ふう。疲れたな。ちょっと飯にするか」

自販機でカップうどんを買う。

「ずずず。あはははは。ずずずず。あはははは」

カップうどんを食べながら、お笑い番組を見てる。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・

インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。至

急、避難してください。至急、避難してください」

「な、なにい！」

菅原啓太はあわてて、カップうどんを落としてしまう。

「おい山下。起きろ。大変だ」

ソファの上で仮眠をとっていた部下の山下を揺する。

「むにやむにや。ボインはいいよ。ボインはいいよ」

「寝ぼけてやがる！」

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・

インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。至

急、避難してください。至急、避難してください」

だから、マース・システムって一体何なんだよ！

どがあああああああん。

菅原啓太と山下は吹っ飛んだ。

窓を突き破り、落下。

ざあああああああ。

雨はしつこく降り続ける。一体何の目的で雨は降る。何がしたいん

だ。何なんだお前は。

ジョン・レノンの曲がどこから流れる。

ここに「ノーバディ・ラブズ・ユー」の歌詞を挿入。

著作権法の関係上、載せることはできません。ご了承ください。

ざあああああああ。

菅原啓太（この菅原啓太はまた別の同姓同名の菅原啓太である）は、大学の体育館でバレーをしていた。バレー部に所属しているのだ。すでに午後七時。電気をつけて練習している。もうすぐ大会だからみんな必死だ。

しばしの休憩タイム。

菅原啓太は友達のゴリスケと、壁にもたれて座り、水筒に入ったスポドリを飲む。

「おい。菅原啓太。お前、好きな子いるのかよ」

「いねえよ」

「菅原啓太、うそつくなよ」

「それより、フルネームで呼ぶなよ、ゴリスケ」

「本名で呼ぶな。気分悪い」

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲル・インしました。至急、避難してください。至急、避難してください」

「ええっ」

「大変だ」

うーうーうー。

わちゃわちゃするバレー部員たち。

「菅原啓太。マースって一体何なんだよ」

「わからん。それより早く逃げよう」

「お、おう」

体育館で大爆発音。

ざあああああああ。

ざああああああああああ。

体育館の外では、ニメートルくらいの男が、傘もささず、雨に打たれて立っていた。

野良犬が走ってる。

と大学から一キロくらい離れた繁華街。

北村進一は、本屋で立ち読みをしていた。

この本買おうかななんて思ってる。

店内放送が流れた。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました。至急、避難してください。至急、避難してください」

本屋で爆発音。

ざああああああ。

雨はますます激しくなる。一体何に怒っているのか。政府か。それとも社会全体に対してか。

確かに自殺者が年間五万人もいるなら、天が怒っても当然だ。怒らない方が不自然だ。

ざあああああ。

救急車が大急ぎで走る。

救急車の運転席。無線機からアナウンス。

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました」

救急車が急に爆発し、ガードレールに突っ込んだ。

ざあああああ。

松山宗一という老人。趣味は将棋である。

家で、友人の相沼願一と将棋をさしていた。

「王手っ！」

「わっちゃあ。待ってくれよう。宗さん」

「いいや。待たん」

「緊急事態発生。緊急事態発生。マース・システムがロドリゲス・インしました。マース・システムがロドリゲス・インしました」
どがああああん。

ざあああああ。

ざあああああ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4831v/>

菅原啓太物語

2011年10月9日18時26分発行